

【様式 2】

②食育月間以外の月の取組

提出都道府県名 政令指定都市名	埼玉県
取組市町村名 取組団体・企業名	行田市
取組の名称	市民けんこう大学・大学院 第 10 講座
実施時期	平成 30 年 12 月 11 日、12 月 12 日
取組内容	実施方法 対象者：市民けんこう大学・大学院受講者 会 場：V I V A ぎょうだ調理室 スタッフ：食生活改善推進員、保健センター管理栄養士、大塚製薬（株）、 保健センター管理栄養士 参加人数：22 名 内 容：【講話】「ミラクルフード“大豆”のヒ・ミ・ツ」 ～知られざるイソフラボンパワーとは～ 講師：大塚製薬株式会社 山田直広氏 【実習】「大豆を使った簡単調理（かぼちゃのポタージュ大豆風味・おからドーナツ）」 保健センター 管理栄養士 その他 ・行田市と「健康づくり相互応援協定」を締結している大塚製薬（株）山田氏に講演を依頼し、科学的根拠に基づいた健康に関する最新情報を提供いただきました。 ・良質なたんぱく質を多く含む大豆についての話を中心に、現代の食生活の問題点を知り、その改善点を考えると共に、低栄養にならないための食事のポイントなどを学びました。 ・調理実習では大豆製品を使った調理実習を行い、今後手軽に大豆を活用することができるきっかけとなるように実施しました。

②食育月間以外の月の取組

提出都道府県名 政令指定都市名	埼玉県
取組市町村名 取組団体・企業名	三郷市
取組の名称	みさとの朝ごはん推進事業
実施時期	6月、9月、10月、11月の市の集団健康診査日のうち10日間
取組内容	集団健康診査に来た市民の方を対象に、朝ごはんの試食及び講話を行っています。今年度は、平成29年度に作成した「すこやかみさと朝食レシピ『ぱぱっと簡単！しあわせ朝ごはん』」のレシピ集の中から、「ブロッコリーパングラタン」と「パンにもあうみそスープ」を三郷市食生活改善推進員協議会に協力していただき、提供しました。 また、試食会場では調理動画の上映や、管理栄養士による朝食接種の大切さについての講話も行いました。 来場者からは、「簡単に作れる朝ごはんのメニューが分かってよい。」等の声をいただいています。

②食育月間以外の月の取組

提出都道府県名 政令指定都市名	埼玉県
取組市町村名 取組団体・企業名	鳩山町
取組の名称	鳩山町、鳩山町教育委員会連携事業
実施時期	平成30年7月～平成31年3月
取組内容	鳩山町では、平成27年度より「まめで健康21プラン（第2次鳩山町健康増進計画・鳩山町食育推進計画）」に基づき、地域や関係機関、庁内関係課等と連携を取りながら、健康づくり並びに食育の推進に取り組んでいます。第2次食育推進計画では、家庭、地域、行政等が連携し、各ライフステージに応じた切れ目の無い食育の推進を目標としています。 1. 目的 同事業は、地元で採れる農産物や特産品を使ったアイデアレシピを募集することにより、地域の農業、町の特産品への理解を深め、また、優秀作品を実際に学校給食メニューとして取り入れることにより、正しい栄養・食生活の知識の普及・啓発を図り、子どもたちの食に対する興味・関心を育むことを目的としています。 2. 対象 同事業の主な対象は、小中学生とその保護者及び家族としますが、応募資格は、居住地・年齢・性別を問いません。 3. 内容・方法 (1) アイデアレシピの募集（7～9月） 町内各所へ応募用紙を設置します。また、小中学校では「夏の自由課題」の1つとして、取り入れられ、応募用紙は各校を通じて全校児童・生徒へ配布し、募集します。下記2つの部門について、アイデアレシピを募集します。 〔応募部門〕 ①地産地消部門：町の農産物や特産品を使ったレシピを募集 ②給食でこれが食べたい！部門：自由なひらめきによるレシピを募集 (2) 書類による一次審査（9月） 食や栄養を専門とする管理栄養士・栄養士が中心となり、書類審査を行います。 (3) 試食による二次審査（9月29日） ※町健康まつり「いきいきシルバー健康まつり」と同時開催 一次審査を通過した各部門上位3作品を実際に料理として再現し、一般町

	民による試食審査を行います。 (4) 表彰式 (11 月 3 日) 「第 39 回はとやま祭」において、入選者を対象に町表彰式を実施します。 その他、応募者全員に参加賞を贈呈します。 (5) 学校給食提供 (1 ～ 3 月 ※予定) 優秀作品の中から数点を、実際に学校給食メニューとして提供します。 なお、同事業における連携機関及び内容は、下記の通りです。 ※ (1) (4) (5) 教育委員会、(2) 鳩山町栄養士連絡会、(2) (3) (5) 学校給食センター、(3) 鳩山町食生活改善推進員協議会、鳩山町食コミボランティア 4. まとめ・考察 平成 30 年度の応募作品総数は 31 作品であり、小中学生からの応募は 24 作品 (全体の約 77%) でした。今年も、入賞作品の中から複数の作品が学校給食メニューとして提供される予定です。 同事業は、教育委員会や学校給食センターをはじめ、多くの関係機関の理解と協力があり、町の食育事業として地域に広がりつつあります。同事業を通じて、「子ども達の食に対する興味・関心の向上」や「親子で一緒にレシピを考え、作って食べることによる楽しい食体験」、「生きた教材である学校給食として提供することによる正しい知識の普及・啓発」を図りました。 今後も、引き続き、より多くの方に応募していただけるための工夫や、多くの入賞作品を学校給食メニューとして提供できるよう、学校給食センター等の関係機関との連携強化を図りたいと考えます。
--	--